

## 参加報告

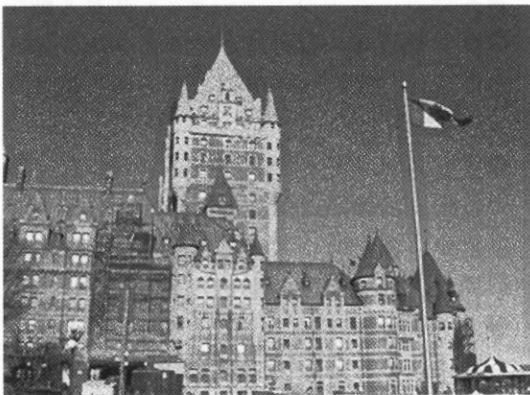
## 第40回 ICA円卓会議@カナダ・ケベック

ーアーカイブ、多様性、グローバリゼーション 多様性保存のための協力ー

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 副会長 小川 千代子

## 1. 開催地ケベック

2007年11月11日-17日、カナダ・ケベックのローズ・ホテル・コンコルドを会場に、第40回ICA円卓会議が開催された。ケベックはカナダ東海岸北部に位置して気温は低く、厳冬期にはマイナス40度にも達するという。会期中は好天に恵まれたものの、いつも完全な防寒が必要であった。最終日の見学ツアーの日は、雪がちらついた。



世界遺産：ケベック歴史地区

## 2. ICAと円卓会議

ICA国際文書館評議会（以下ICA）は、4年に1度、オリンピックの年に大会を開催する。これ以外の各年には、各国国立公文書館長並びに各国専門家団体会長が集う円卓会議が、各国持ち回りで開催される。2007年はカナダ・ケベック州が円卓会議を招致した。

## 3. 会議概要

会議テーマは2005-2007年度共通の「アーカイブ、多様性、グローバリゼーション」を踏まえ、「多様性保存のための協力」が掲げられた。開会式で挨拶に立った円卓会議会長でICA副会長の菊池光興氏（日本国立公文書

館長）は、06年〔キュラソーコンセンサス〕の名で緊急事態を告げたICAの財政状態が今回は改善されたことや、10月末には東京で150人の参加を得てEASTICA総会が開催されたことなどを述べた。菊池氏の言うとおりに、会議は06年に比べ、穏やかな進行であったといってよい。研究会議では、前回に続き参加者が自由にテーマを選んで参加するグループ討議が取り入れられた。誰かの発表を聞いて質問する、というだけでなく、テーマを選んで積極的な発言をたたかわせるグループ討議の時間が多く設定されたので、参加者は発言や意見交換の機会が増えた（筆者担当のグループ討議の様子は、別項5.を参照）。

また、初の世界国立公文書館長会議が開かれ、こちらは独自の決議を採択した模様。この【裏番組】として専門家団体会長会も開催され、ケベック/アーカイブ宣言が紹介された。従来円卓会議の中核であった全体会での発表では、図書館・博物館との連携が取り上げられ、参加者の関心と呼んだ。世界アーカイブ宣言起草の提案は、専門家団体会長の成果である。

ICA/SPA専門家団体部会は運営委員会と総会が開催された。運営委員会ではアーキビスト資格についての議論をさらに深めるため、円卓会議のグループ討議テーマに「アーキビスト資格」を提案する事を決めた。このグループ討議は、20名以上が集う最大のグループとなった。

## 4. 年次総会

会期の締めくくりとして開催されたICAの意思決定会議である年次総会では、菊池円卓会議会長のもとで、次期ICA事務総長の選挙

が行われ、英国国立公文書館から派遣され、ICA事務次長として活躍中のデイビッド・ライチ氏が選出された。壇上に並ぶICA首脳の中であって、今回で引退する事務総長には「ヨアン」、新事務総長は「デイビッド」、菊池氏は「マイク」とファーストネームで呼ぶ合う様子がみられ、和やかな雰囲気の中で閉幕した。



総会で挨拶する菊池 ICA 副会長

## 5. グループ討議「電子記録の長期保存」司会進行と取りまとめ

筆者が司会進行、並びに議論のとりまとめを担当した「電子記録の長期保存」グループには、オーストリア、米国、スロベニア、ケニア、マレーシア、日本、ガンビア、スイス、ドイツ、ボツワナ、フランス、欧州理事会、ユタ系図協会の11カ国と2国際機関から13人が集まった。司会を担当した筆者は、まずは英語によるコミュニケーションを提案したところ、フランスのメンバーがグループを離れた。フランスからのメンバーは討議の話題が技術よりは社会基盤にあることで、期待と異なっていたことが参加取り消しの理由であった。残る10カ国2国際機関の12名で自由討議を始めた。集まったメンバーが置かれている電子記録をめぐる各国各機関の現状を手始めに各自から紹介してもらうことにした。以下、各国の事情を簡単に記す。

●ガンビア：Eメールがあるけれども、時々停電して数日間メールを見ることが出来ない日がある。しかし、電子記録の長期保存については大切な問題なので考えたい。

●ケニア：電子記録の保存については、まだはじめばかり。デジタル化と酸性劣化した紙の取扱いについて、問題意識を抱いている。

●マレーシア：数年前から、UKのシステムを参考に電子記録長期保存の取組みに着手している。この場でもっと多くの情報を得たいと考えている。写真、紙の保存、アーカイブシステムなど。

●スロベニア：電子記録の長期保存プロジェクトを推進中。電子ドキュメントの保存は企業と協働を考えている。

●米国：大学のアーカイブの立場。米国政府記録以外のコレクションのアクセスをどのように提供するかが現在の問題点。所蔵資料には、ポーランドの第2次世界大戦時の資料や台湾の資料などのマイクロフィルムも多い。これらの取扱いにも頭を悩ませている。

●オーストリア：公文書をデジタル化するのは国立図書館と国立公文書館との協力で推進中。課題はコストだと思う。企業との協働は08年に検討の予定。

●ユタ系図協会(GSU)：世界中から、家系図に関わる記録をマイクロフィルムで集めた。マイクロフィルム250万ロールを所蔵、今後順次デジタル化してウェブにのせる。今はデジタル主流。21世紀に入り、名前によって検索できるインデックスを大量にウェブ上に載せた。

具体的な手法と技法については、TIFF、グレースケールを用いて、コーネル大学との連携で保存しているものと、JPEG2000でウェブに掲載しているものがある。すでにウェブに出しているものの、マイグレーションはまだしていない。チェックはしているが、CDの媒体寿命は短いので、かなり早く劣化する。しかし、コダックがマイクロフィルムの製造を止めてしまったので、デジタルに頼らざるをえない<sup>1</sup>。

●欧州理事会Council of Europe：46カ国が

加盟する国際機関。各国と本組織で協力して、アクセスと保存に取り組む。50年保存が条件だが、紙は劣化が懸念され、電子は不明。

3年前から図書館と文書館で研究・検討を行っている。歴史的アーカイブ、公式記録がある。欧州裁判所の記録を対象に、デジタル化したもの、デジタル化せずに10万点をOPACで保存するものに分けている。コーポレート・コンテンツ・マネジメント（組織情報内容管理）は、図書館とデータベース公開中。テキスト情報のほか、視聴覚記録（音声・画像）をデジタル化した。これをどう長期保存するかというドキュメンテーションの問題がある。リスクマネジメントともかかわる問題と捉えている。

●スイス連邦：e-アーカイビングシステムがある。これを用いてポーンデジタル記録の長期保存に取り組んでいるが、経済性か

ら考えるとすべて保存するのはむずかしい。  
 ・リテンション・スケジュール（保存期間表）で長期保存が見合うもの  
 ・スタンダード（標準）ニーズに合致するイメージの標準が望ましい。例えば米国では30-50年がニーズと聞いている  
 ・インテグリティ（完全性）にも問題がある



2日目の討議では、電子記録を離れ、各国の閲覧制度とその料金体系に話題が発展した。閲覧に課金しているケニア国立公文書館では、大量の資料を閲覧する学生や研究者の利用料金は、一般利用者より高く設定されている。このほかにも、閲覧に課金システムを設けているという報告が聞かれた。公文書館の利用は無料が当たり前と思いついてきたが、これも国によって異なることを改めて思い知らされた。

#### 第40回 I C A 円卓会議日程（太字は研究会議）

	午 前	午 後	夜
11.11 (日)	S P A 運営委員会	S P A 運営委員会	フリー
11.12 (月)	フリー	フリー	開会式
11.13 (火)	<b>円卓会議全体会</b>	<b>各グループ討議+全体報告</b>	フリー
11.14 (水)	<b>円卓会議全体会 +各グループ討議</b>	<b>各国国立公文書館長会議/ 専門家団体会長会</b>	博物館でのレセプション
11.15 (木)	まとめ+円卓会議決議採択	I C A 年次総会	フリー
11.16 (金)	I C A 年次総会+閉会式	S P A 総会	懇親会
11.17 (土)	ヒュロン-ウェンダッツ村(インディアン居住地博物館)見学		解散

1 GSUの記述の数値に関しては、GSU東京支部図書館の杉本圭司氏からの教示により確認した。

## 第40回国際文書館評議会円卓会議決議 2007年ICA年次総会 カナダ・ケベック11月15-16日

各国国立公文書館長、各国専門家団体会長、並びにICAの選出された専門家役員は、第40回国際文書館評議会円卓会議に会合し：

### 1 文書館、図書館および博物館の関係

資料遺産保存機関のより緊密な連携の必要性、及び投資並びに対費用効果、利用者サービスの質に関する優位性にかんがみICAに対し、各文書館機関及び団体が図書館、博物館と協力すること、及びたとえばIFLA並びにICOMとの間で一般的な活動分野の中で現に存在する協力関係を強化することを奨励するよう、要請する。

### 2 ワールド・デジタルライブラリ

欧州デジタルライブラリが、欧州共同体EUによりアーカイブを包含して始められたことに鑑み、米国議会図書館の多文化資料遺産のユニバーサルアクセスを目指した政策に鑑み、ICAは、ワールド・デジタルライブラリプロジェクトの管理担当者に対し、次の各項目を求める：

- ・アーカイブ資料は世界資料遺産における必須部分であることを考慮すること
- ・ユネスコ世界の記録遺産登録制度で登録されたアーカイブ資料群に対し、優先順位を高めること

### 3 図書館、博物館が所蔵するアーカイブ資料

上記（アーカイブ）資料群を取り扱う場合には、アーカイブ管理実務及び標準に従った、必要性を強調すること

### 4 民間文書の売買

歴史的価値ある資料の市場価格高騰が、古文書、手稿を扱う業者がこの種の資料に対する関心を高めていることに注目し、こうした資料の所有者に対し、必要な場合には資料をアーカイブ機関に移管することを含め、その適切な保存及びアクセスを確保するよう奨励する。

### 5 専門家の資格要件

記録／アーカイブ専門家、司書、博物館学芸員の協力は、21世紀においては必須であることにかんがみ、各専門分野の明確な特性を理解しなければならず、

強固な専門職は中核となる明確な資格要件を持たねばならないことにかんがみ、各国専門家団体及びアーカイブ機関に対し、それぞれ独自の資格要件を示すことを奨励し、ICA/SPA, EURBICA及びARMA Internationalにより最近結成されたワーキンググループが、アーカイブ専門職の為の中核資格要件の取りまとめに向け、努力を継続することを奨励する。

### 6 アーカイブ所蔵資料に対する防災対策

自然災害及び人為災害に起因して、希少でかけがえのない記録を失うリスクを深く憂慮し、多くの国々で現行法令が、通常日最後の復旧復興について十分な戦略を提供していないことにかんがみ、ICAは、加盟国が当該国内及び関係国外地域の記録を防護するため、法的、政策的枠組みを作成することを要望し、アーカイブ機関には、

これら記録の適切な保存を確保するための、戦略と手続きの開発・実行を奨励する。

### 7 盗難対策

アーカイブ記録の市場価格の高騰が、その結果としてアーカイブ機関はもとより閲覧室における記録の利用者による盗難の危険性の増加を招いている事実にかんがみ、ICAに次の各項を要請する：

- ・IFLA, ICOMを含むあらゆる関係専門職との協力の下で、セキュリティ問題に関するワーキンググループの結成及び本分野で発展したプロジェクトの支援を行うこと
- ・アーカイブ資料の盗難防止につながる模範事例の標準作成を行うため、図書館、博物館、美術館他あらゆる関係機関と協力すること
- ・アーカイブ資料の盗難防止に貢献するであろう国立及び国際機関並びにプロジェクトと協力すること
- ・政府及び法務当局並びに警察に対し、アーカイブ記録の盗難は、芸術作品の場合と同じく深刻であると考えるように奨励すること。

### 8 デジタル記録の長期保存

デジタル記録は公私機関で一般化していることにかんがみ、これら記録の数世紀にもわたる長期保存のニーズにかんがみ、これら記録の作成者とその産業界に対し、解決策の模索のため、ICAへの加盟を懇請する。

### 9 世界アーカイブ宣言

ケベック・アーカイブ宣言<sup>2</sup>の形成と広報に連なる政策との関連性にかんがみICAがICA/SPAに対し、世界アーカイブ宣言を起草するよう命じることを提案する

### 10 謝辞

本円卓会議における各発表者には発表の労に感謝するとともに、ディスカッション・グループに参加した各位の積極的な発言に感謝する。

カナダ国立図書館・文書館及びケベック国立図書館・文書館の両館長及びそのスタッフに対し、会議の見事な挙行とそのもてなしに、参加者一同は心底からの謝意を表する。  
(訳・小川千代子)

【覚え書】この決議に付された項目番号1,2は、円卓会議全体会で発表されたテーマの重要性を述べている。項目番号3-8は、予め提案されていたテーマ別自由討議の成果のうち、特に重要とされたものが取り上げられた。項目番号9は、専門家団体代表とカナダ・アーキビスト協会との合同セッションで紹介されたケベック・アーカイブ宣言に着目したものである。なお、筆者は8デジタル記録の長期保存小グループ討議の司会進行と決議案文策定を担当した。

2

[http://www.archivistes.qc.ca/evenement/declaration/declaration\\_en.html](http://www.archivistes.qc.ca/evenement/declaration/declaration_en.html)